

大阪府立砂川高等学校



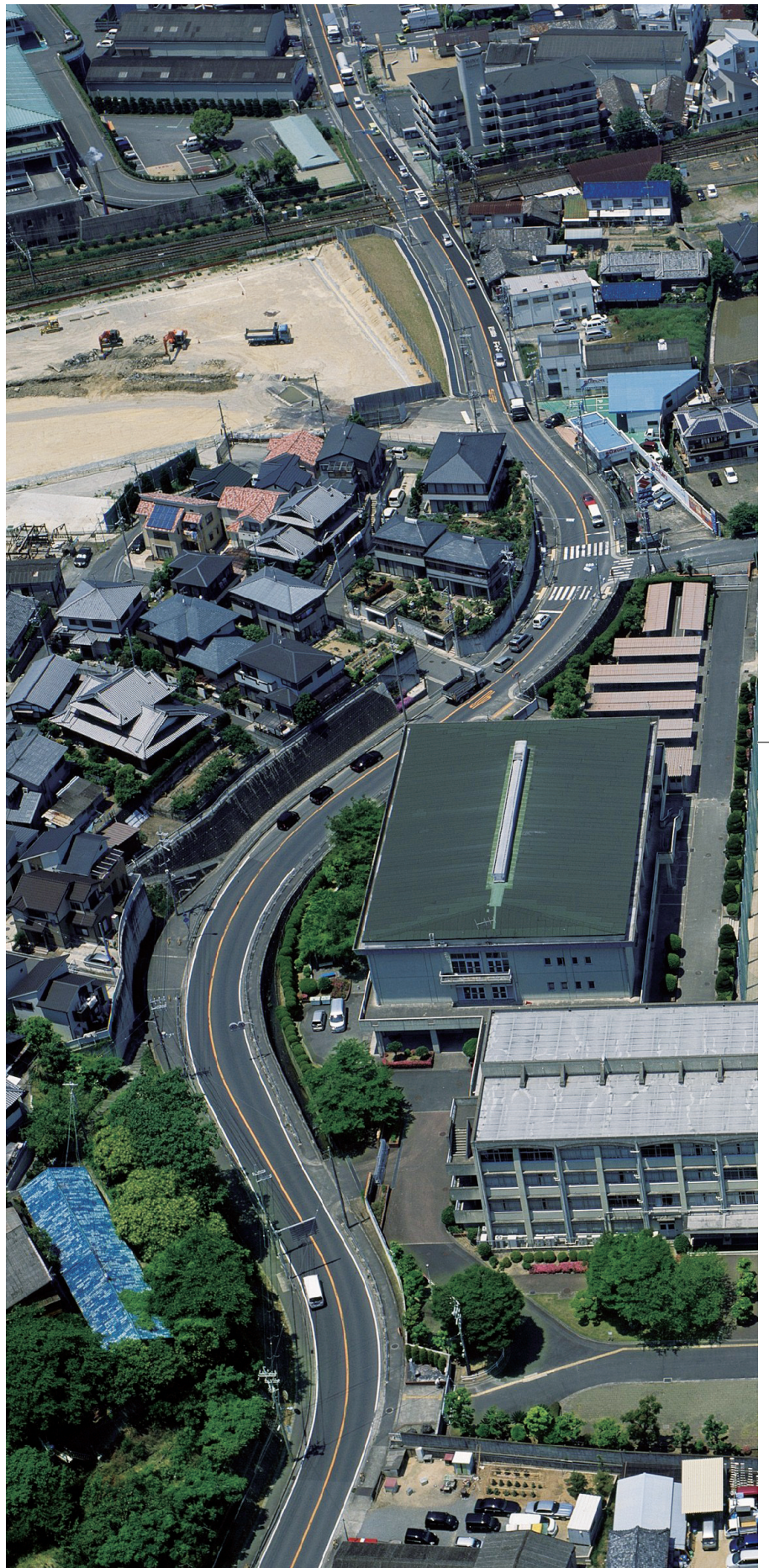
ありがとう。砂川。

28年の歩み
1983～2011



The History

校舎全景





The History

校名の由来

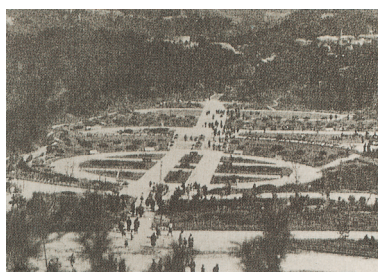
本校の所在地は泉南市信達牧野である。同地は、明治 22 年の市町村制施行の際、日根郡信達荘牧野から日根郡北信達村大字牧野となり、明治 29 年泉南郡と一部合併して郡名を変更、昭和 3 年、泉南郡信達村大字牧野と改称、昭和 16 年合併して泉南郡信達牧野となって今日に至っている。

同市には既に府立泉南高等学校が設立されているため、本校の校名に市名を冠することはできない。そこで、当地の旧荘名を冠した信達高等学校、また古来の旧郡名を冠した日根高等学校の校名を考えていたが、結局、当地の名勝「砂川奇勝」の名称を生かして冠した大阪府立砂川高等学校に決定した。

高倉山の北麓、第三紀層の丘陵地帯、J R 阪和線の和泉砂川駅から東へ約 1 キロメートルのところにかつて「砂川奇勝」があった。砂川は、地層を形成する白色珪質砂礫層が風化作用によって土柱状の奇勝となったところで、「砂川遊園」として地域住民のみならず広く府民にも親しまれた。

昭和 45 年頃から開発が始まり、現在では往時の砂川遊園の面影をほとんど残していないが、駅名をはじめとして広くその地名を留めている。本校の校名はその由緒のある砂川の地名を冠したものである。

なお、本校校地があった場所には、かつて信ノ池と呼ばれた池があり、その池を埋め立てた後に建てられたものである。



◀ かつての砂川遊園
(昭和の初期)



▲ 現在の砂川奇勝

校旗



砂川高校のスクールカラーであるスカイブルーの地に、校章を中央に配し、縦に校名を染め抜いたものである。

校章



意匠：藤野修次初代校長

砂川の頭文字 S と川を組み合わせ、その中に、高等学校の高を入れたものである。また、S は SUN (太陽) を表し、川は、太陽の光がすみずみに行き渡り、砂川高校から、広く社会の各方面に活躍する前途有為の青年の育ってゆくことを表現している。



教育目標

教育基本法および学校教育法に則り、平和国家の形成者にふさわしい人材の育成をめざし、豊かな教養と知性を身につけさせ、自主自律の精神と創造力をもつ心身ともに健康な国民を育成することを目的とする。

教育方針

1. 学習意欲を高め、基礎学力の充実を図り、科学性と創造性を育て、積極的な能力の開発をめざす。
2. 基本的生活習慣を身につけさせ、規律と礼儀を重んじる人間を育成する。
3. 心理と正義を愛し、人権尊重の精神に徹する教育を積極的に進める。
4. 教科外活動の充実を図り、勤労を愛する精神を養い、個性の伸長と自主自律の気風を培う。
5. 健康教育に留意し、青年の情熱と純真さを失わず健全な身体と明朗な心を身につけるよう指導する。



校歌碑▶
(田村 剛 前書道科教諭書)

校歌

才 歌
作詞 校歌制定委員会
作曲 津川 昌司
書 中 島 旭 彦

1. 高食いに草薙え
学びの庭に風かおる
真理の光 身へ浴びし
ともし度こう わが精神
かがやけ 我らが 砂川高校
2. 古ひらけし 信達へ
新たな歴史 織りこめ
春吹く 希望みこ
ともし度こう わが青春
とどろけ 我らが 砂川高校
3. 汐の香ゆか 白砂へ
美しき 永遠の夢えがく
空の港とほろに 見こ
希望に 燃え立つ わが未来
はびたけ 我らが 砂川高校



Contents

砂川高等学校 28 年のあゆみ

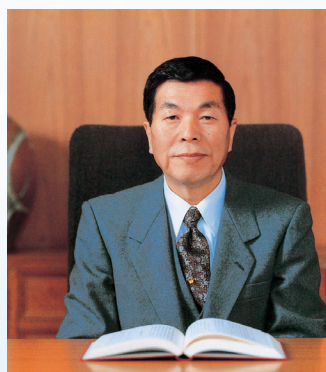
校舎全景	2
校名の由来・校旗・校章	4
教育目標・教育方針・校歌	5
歴代校長	7
巻頭言	8
挨拶	10
沿革	14
施設	18
周辺風景	22
学校行事	24
学校生活（思い出の風景）	28
部活動の歩み	34
各期の記録・思い出	40
閉校記念行事	72
P T A 活動	74
同窓会活動	76
資料編	
教職員一覧	78
校務分掌表	83
教育課程表	84
校舎概略図	86
編集後記	88



初代校長
藤野 修次
(昭和 58 年 1 月 1 日～)



二代校長
福原 正清
(昭和 61 年 4 月 1 日～)



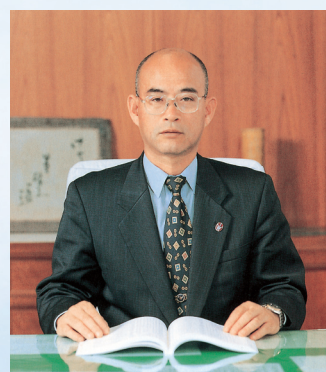
三代校長
志波 健弘
(平成 2 年 4 月 1 日～)



四代校長
石田 清司
(平成 5 年 4 月 1 日～)



五代校長
井本 泰彦
(平成 10 年 4 月 1 日～)



六代校長
兎玉 道仁
(平成 13 年 4 月 1 日～)



七代校長
吉川 測雄
(平成 15 年 4 月 1 日～)



八代校長
明山 富久吉
(平成 18 年 4 月 1 日～)



「砂川高校、永遠なれ！」

校長 明山 富久吉

府立第140高校として昭和58年4月1日、大阪府立砂川高等学校が誕生しました。創立10周年及び20周年記念誌を読んでいると、この28年様々な歴史を刻んできたことが記されています。まず、かつて信ノ池と呼ばれた池を埋め立てに際しての地元の協力・期待、そして創立準備に関しての学校関係者の熱意・努力、その双方なくしては砂川高校は誕生しなかったこと。そして地元の方々の協力で誕生し、当初は府下でもめずらしい英語科を本校に創設する動きがあり、学校を上げて英語教育に取り組んでいたこと。また、部活動にも力を入れ、ソフトボール部や書道部、写真部等全国レベルで活躍していたこと。こういった輝かしい一面と、生徒指導上の問題が次々起こり、その対応に教職員一同力を合わせ生徒と奮闘してきたこと等いろいろ記されています。船の航海に例えれば、出港した砂川丸が順風満帆な時期、嵐に翻弄された時期を経て無事母港へ戻ってきて長い航海を終えるような感じを記念誌を読んで持ちました。

さて、この砂川高校も府教委の再編整備計画により泉南高校と統合し、平成23年3月末で28年の歴史を閉じます。砂川高校の最後の校長として、無念であり、また大変申し訳ない、そして悔しい気持ちでいっぱいです。私は平成16年に教頭として砂川高校に異動してきて教頭2年そして校長5年と計7年間砂川高校でお世話になりました。だから思い入れも深く愛着もあります。より一層、惜別感や喪失感をこれから抱くことになるだろうと思います。私自身、新設校の立ち上げに関わった経験

がありますが、それは年々生徒も教員も増え、設備・施設等も整ってきて、夢が大きく広がり元気がでてきたのを記憶しています。一方、今回はちょうどその逆で、年々生徒数や教員数が減り、そしてそれに応じて校舎・敷地が減ればそれでこじんまりとしていいとは思いますが、広い敷地と校舎にこの最終年度（平成22年度）は、3年生179名、教員16名の体制でより一層寂しさを感じました。この生徒たちは、新聞紙上で本校の統合計画が発表され、閉校になるのを知った上で本校に入学してくれた最後の生徒（26期生）です。この生徒たちに入学した時から、「砂川にきてよかった、楽しかった」と感じてもらうために教職員一丸となって学習面、生徒指導面、進路指導面、学校行事等全力であたってきました。その一つとして、始業式・終業式前にいつも校歌を合唱し、毎回私の方から生徒たちに、「閉校後、校歌を歌う時は手本にするレコードやCDもなく、頼りになるのは君たちみんなの記憶だけなんだよ。しっかり歌いなさい。」と、常にこのように訴えかけてきました。生徒たちに砂川高校そのものを、また砂川高校での様々な行事や出来事を胸に深く刻んでもらい、忘れないように、また同窓会等今後の再会を祈念してのことです。生徒たちの方も最終年度に入ってから、生徒自らが前に出て歌唱をリードしてくれたり、大きな声で歌えるようになり一体感や帰属意識が育ってきました。また、閉校記念行事も昨年の「ありがとう砂川ラストコンサート」に始まり、今年度は、思い出づくりとして、ミュージカル鑑賞、マナー講習会を企画し、生徒中心の泉南高校との合同行事

等次々と閉校記念行事が予定しています。（この記念誌が発行されている頃には、全ての行事が終わっていることでしょう）この26期生は我々の要請に良く応えてくれ立派に成長しました。充実した高校生活を砂川高校で送れたと思います。やり遂げたという自信を胸に大きく巣立って行って下さい。

たとえ、母校がなくなっても。卒業生が出なくても、卒業生同士が毎年集い、そして各年度間で交流を深め、砂川高校同窓会として今後ますます発展することを期待します。また、今までお世話になった地元地域にも貢献できることを願っています。

28年にわたるその歴史の中で青春の一頁を刻み、本校の教育に関わっていただいた全ての皆様の心の中に砂川高校は永遠に残るものと願いたします。

最後になりましたが、創立以来、砂川高校の発展のために並々ならぬご尽力をいただきました地域の皆様、そして同窓会、教育後援会、PTA、教職員の皆様に深く敬意と感謝を申し上げ、お別れの言葉といたします。



砂川高校での回想

第2代校長 福原 正清

昨今、組上の関空が、まさに開港されんとする1983年、初代校長藤野先生より開学の様を度々、当時泉南高校教頭の私、出勤途上拝聴した。岸和田高校の先輩藤野先生の後任に砂川高校への転勤は夢想もしなかった。幸い故初代教頭の佐藤先生には、随分お世話になった。関空と国際化の時流があり、府下随一のAET(英語を母国語とする英語補助教員)の配置校であった。英語の教員の私には幸せであった。昭和38年、府の海外派遣4名の通訳として訪歴したケンブリッジ出身パリット氏、カナダ人スーザン女史には、度々会話の機あり、英米の教育事情等参考になった。AET招致校として府教委より中垣芳隆先生(後の北野高校校長)に助言者とし、府下一円より新採英語教員研修会実施。本地は白砂の景勝地公園跡地、旧9学区最後の新設校、校舎も素敵、教育環境抜群、生徒急増期、世はバブル、教職員120名、生徒数1600余、先生方も伝統校よりのベテラン、優秀な新採等、一致団結し、生指を基軸に学習指導に精励頂いた。事務、技能員さんも故長谷事務長を先導に校舎はもとより、校地の植樹手入れに懸命。生徒諸氏も純情快活。PTAも地元名士、中谷、古野、溝端、角野各氏を会長に各行事に保護者の協力を頂戴。初代同窓会会長には、私の媒酌させてもらった奥野氏が選出された。昭和天皇のご大葬は昭和64年(平成元年)1月8日、隣接の信達中学と共に弔旗を掲げての始業式。これも国家観、歴史観の異なる先生方のご理解とご協力と感佩。平成2年3月入学願書受付中に、夕陽丘高校よりの第2代教頭永石先生が若く急逝された事。痛恨、痛惜の極み。第4代校長には、岸和田高校で新採の私の英語担当の石田清司先生が就任。岸和田高校で一緒に児玉道仁先生も砂川高校の校長より岸和田高校の校長に着任。すべて天地人の勝縁に恵まれた府立高校4校勤務の最終校。

砂川高校が、泉南高校共々、新生し、りんくう翔南高校が、大きく羽ばたき飛躍進展されますよう。



何もかもがギリギリで

第4代校長 石田 清司

576。郵便番号でもなし。はて、この数字?府立新設高校の同時開校が二桁にも及ぶ生徒急増期。明日にも第1期生の受検日が迫るなか、どこかの倉庫から運び込まれ、次々と荷降ろしされて行く椅子と机の数なのです。

人もモノも最低限ギリギリ=新設校。

この方程式のもとで砂川高校も開校準備の最終段階に入っていたはずなのです。「はず」と言うのも、ほくはその時、隣接する第8学区、信太高校の開校を手掛けておりまして、全く同じ事情の下にあったからなのです。真新しいとは言え、ホコリや汚れいっぱい椅子や机を、雑巾片手に拭いてゆく単純作業から、公正正確を厳しく求められる入試業務に至るまで、有能揃いとは言え、数少ない教員の手で万全を期すべく、ことが運ばれて行く様こそ、新設校幕開け前夜の姿でありました。後日、兄弟校が奇しくも、己が校長としての赴任先とは夢想だにせず、唯々、教職を生業とするほくには、この学校造りこそ願っても得難い巡り合わせ、仕事冥利に尽きるものよと心も弾ませたものでした。「オレがこの学校を創ってんや」との気概は大きな誇りへと成り、また花の第1期生、576人への叱咤激励に繋がり、その後の彼らの人間形成の原点にもなったことでしょう。

退職後、招かれた創立20周年記念の宴席での心に残ったひとコマを再現いたしましょう。馳せ参じた卒業生たちの中に、可愛い赤ちゃんを抱っこするカップルの姿が目にとまりました。聞けば双方とも砂川高校育ち。とすれば、この赤ちゃんこそ、「純正の砂川ブランド」年齢はたちを迎えた砂川高校の、いわば成人式たるこの式典に、なんと相応しいデビューでしょうや。パパとママの学び舎への回帰の春に思いを寄せつつ、砂川高校の更なる発展と、併せてこのベビーの健やかな成長を祈ったひとときでした。



砂川高校の思い出

第5代校長 井本 泰彦

うぐいすの音が聞こえる自然に満ちあふれた、空気がきれいな砂川でしたが、それ以上に生徒をはじめ関係のみなさんの穏やかな心の豊かさが深く心に残る砂川でした。

生徒の皆さんの話を聞こうとする姿勢はいろいろな場面で印象に残っています。集会の場では話が進むほどに集まる瞳が増えて身が引き締まる思いを感じつつ充実した時間であったことを覚えています。校長室での対話も多くありましたが、真剣な表情で真剣に考え自分の思っていることを素直に伝えてくれていました。卒業写真撮影のために校長室へ来た生徒たち、修学旅行で部屋に遊びに来た生徒たちの素朴な笑顔も脳裏に残っています。

生徒の過ちがあって親御さんと校長室に来たときには話を良く聞いてくれて取るべき道を考え、部屋を出るときには親子共々目で礼を伝えていました。

保護者の皆さんも子どもの成長を願って学校に協力いただきましたが、特にPTA活動では、暑い体育大会には子どもたちに楽しい思いをと氷をトラックいっぱい運び込んで冷たいジュースを飲ませたり、文化祭では生徒の経験を広げようと餅つきを計画するなど常に子どもたちのためになることを探して努力しておられたのを思い出します。一部の学校では学校の不備ばかりを指摘する風潮があると聞きましたが本校ではすべての親御さんが子どもの将来を学校とともに考えてくれる雰囲気でした。中学校の先生やご近所の住民の方も広い心で受けてくれたものです。泉南の地の豊かで優しい心と過ごした3年間でした。

当時の9学区は生徒減少が少なく統合はないはずでしたが学区の再編成で状況が変わりました。卒業生の皆さんには校名と校地がなくなるのは淋しいことですが、共に学んだ砂川高校を胸に大いに発展されることを祈ります。また、これまでに多くのご援助をいただいた関係の皆さんには心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。



砂川高校よ永遠なれ

第7代校長 吉川 測雄

学校の校舎の窓から見る泉南平野から大阪湾に続く関西空港を臨む景色はゆっくりとした時間の経過を感じさせられました。夕暮れには黄金色に輝く茅渚の海は砂川高校に学んだもの、砂川高校で働いたものには忘れられない美しさでしょう。また、砂川高校の正門の桜は新学期に砂川高校にくるものを素晴らしいその存在感で迎えてくれます。

さて、私が砂川高校に勤務しているとき「砂川高校の生徒さんが和泉砂川駅で、荷物を持って困っていると手助けしてくれた」というお礼の手紙を神奈川に住まわっている老婦人からいただきました。砂川高校の生徒たちが障がいのある子どもを連れて大きな荷物を持ち駅の階段で困っているとき助けてあげたということでした。本当に優しい生徒たちです。

また、PTAの皆様にも子どもたちのためにと餅つきやクレープ作りに協力していただいたこと、校門での朝のおはよう挨拶運動や通学路の清掃活動を行っていただいたこと、クリスマスパーティーで綿菓子作りをしていたこと、勤務中に倒れ救急車で運ばれたことなど目を閉じれば走馬灯のように心を駆け巡ってゆきます。心優しい生徒や保護者の皆様、先生方と過ごすことのできた砂川高校は永遠に地域の人々や砂川高校にかかわった人々の心に残るものだと思います。砂川高校は泉南高校と合併し、りんくう翔南高校になると聞いています。りんくう翔南高校が砂川高校の校歌「・・・美わし永遠の夢えがく 空の港をはるに見て 希望に燃え立つわが未来 はばたけ我らが・・・」にあるようになっていただければと思っています。「砂川高校ありがとうございました。」



学び多き体験

PTA会長 岸本 陽子

とうとう砂川高校の幕を下ろす日が来てしまいました。卒業生が入学する直前の年に泉南高校との合併が発表され、砂川高校の閉校が決定したのです。在校生にとっても、寝耳に水の出来事でした。閉校するとわかっていながら砂川高校を選んだ我が子を応援しながら、今日まで生徒の成長を見守って来ました。

今までと同じ学生生活を送る事が出来るか、クラブ活動が一番心配でした。高校生活の中で仲間意識や、切磋琢磨する経験はクラブ活動での体験が大変重要だと考えていましたから、生徒数減少で活動が出来なくなる事が懸念されたからです。結果的に三学年のみになった段階でチームでの活動は大打撃をうけました。文化クラブも同じです。それだけでなく三年になると進学や就職活動で自分のことで精一杯になりがちな学年なのに、どうやって盛り上げていくか、が大きな課題でした。PTAとして、ユニフォームの新規購入補助や遠征費補助など出来ることは限られましたが、閉校事業も含めいろんな所に顔を出しました。恒例の砂校祭では、PTAも一丸となり体育祭、文化祭とも生徒と一緒に楽しく事ができました。

この三年間で一番強く思った事は、何が起きても子ども達は乗り越えていけると言うことでした。淡々と、素直にありのままを受け入れ、その中から何かを学び取る姿勢でした。校舎はがらんと静まりかえり、不思議なくらい落ち着いて授業を受けていた子ども達、先生の数も減り環境的には決して良いとはいえない中で自分を見失わずにいてくれたことに感謝さえ覚えます。先生方も、最後の卒業生を一人でも欠かせないようにと一生懸命に支え励まし導いてくださいました。また、白砂会や同窓会の皆様にも御協力頂いたことを感謝しています。ありがとうございました。閉校という稀な経験でしたが、たくさんのことを学んだ体験でした。



きっとだいじょうぶ

後援会会長 城山 久美

私が砂川高校を好きになった最初のワンシーン、それは息子の初めての保護者懇談会に校舎の中で迷子になった時、「何年何組を探していますか？」と知らない生徒から声を掛けてもらった時。

次に砂川高校で良かったと思ったシーン、PTA役員さん方の子ども達がいかに有意義に学校生活が送れるか熱心に語り合う様子を見た時。そして、それに対して校長先生初め、先生方が誠意を持って対応して下さる姿を目の当たりにした時。ああ、この学校は大丈夫！と感じたのでした。

この愛すべき砂川高校が閉校となってしまうのは、この上なく残念で寂しい限りです。

数年前に砂川高校を卒業した息子が時折母校の良さを口にします。「どんなところが？」と聞くと、「自由やった」「友達とふざけ合えた」「大好きな部活動を思いっきりできた」等々。過ぎ去ってから知る高校生活の醍醐味。

在校生の皆さん、今この一瞬を目に焼き付けて下さい。くつろげるログテーブル、放課後の長く伸びた机の影、グラウンドの砂ぼこりを。心に焼き付けて下さい。先生に誉められた事、叱られた事友達と語り合った恋の悩みや夢の話等、そのひとこまひとこまを。

それらの思い出が、皆さんの根っこの栄養分となり、大きく枝を伸ばした木に成長して行くと私は信じています。

これからの長い人生、時に枝が傷付いたり折れたりしても、しっかり栄養の取れている木は時間を掛けてでも再生していきます。

きっとだいじょうぶです。

名称や学舎はなくなっても、培われた絆や学びは、ずっと残ります。

最後になりましたが、28年間の砂川高校を支えて下さった全ての皆様、本当にありがとうございました。後援会は永遠に続きます。



熱き大地を駆ける

同窓会会長 神野 伸彦
(1期生)

何一つできず閉校となってしまう、同窓生の皆様には本当に申し訳ございませんでした。砂川高校を存続するための行動がしたかった。大好きな砂川高校のために。

今から27年前入学した時、校舎は3分の1しかなかった。体育館もプールもなかった。学年が上がるごとに校舎ができ、3年間真新しい教室で過ごした人が何人もいた。食堂も2年目からだったと思う。よくカレーの大盛りを食べ、放課後に『おばちゃん、うどん余ってる?』と通ったものだ。腹がへるのはクラブをしていたから。砂川高校へ来て、サッカー部に入ったことで人生が大きく変わった。

恩師で顧問の島津先生が「1期生のお前らが砂川高校の伝統を作らなあかん」と言われた。卒業しても付き合い合える仲間、一生付き合い合える関係になれる。だから現役と接点は持ち続けないとダメやと。

自分は通った。卒業したはずの学校に。土日に試合があると差し入れを持って行き、審判もした。OBチームを作り、交流戦もした。公式戦に掲げる横断幕も作った。試合の後にはよく車でグラウンドの整備をし、砂ぼこりがた

たないようOBで『にがりまき』もした。自分が学生時代、スライディングをすれば切り傷だらけ、とがった小石だらけだったのがいつの間にか無くなり、水はけもよく府下トップクラスのグラウンドになっていた。

少しずつ学校へ行く回数が減っていた矢先だった。統廃合の知らせが入ったのは……。

OBチームは今も活動中、もう若い後輩が来ることはないけど、地域サッカー大会に出場している。43～21歳、親と子ほど離れた年齢差でも一緒にプレーしている。飲みに行けば、「このおっさん来たらうっとおしかったでな～」と、4つ5つ離れた歳の者同士で冗談をいい、「おまえらの時どんなんやった? おれらの時はこんなんやったで～」といろんな年代で話が盛り上がる。始まりは砂川でサッカーをやっていただけ。この仲間とは一生付き合い合っていく仲間。

自分にとって砂川高校は27年の思い出がある。特にあのグラウンドには。ありがとう。砂川高校。



The History 沿革

昭和56年10月20日

府議会において、大阪府立第140高等学校(仮称)設立のための建築予算が議決される。

昭和57年3月19日

第1期工事契約が承認議決される。

昭和57年4月2日

杭打ち開始

昭和57年7月1日

建築工事着工

昭和57年11月5日

造成工事着工

(この日をもって創立記念日とする。)

昭和57年12月22日

府議会において、大阪府立高等学校等設置条例の一部を改正する条例が議決され、大阪府立砂川高等学校の名称が正式に決まる。

昭和58年1月1日

上記の条例が施行されるにともない、初代校長に藤野修次先生が任命される。

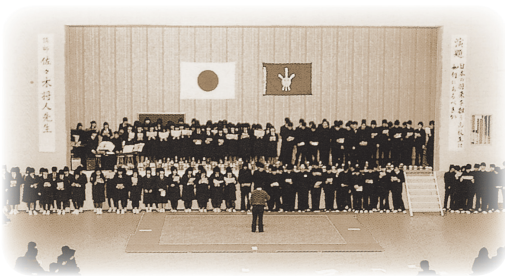
昭和58年1月31日

第1期工事竣工

昭和58年4月1日

開校





昭和58年12月26日

第2期工事 体育館竣工

昭和59年2月29日

第2期工事 校舎棟増築竣工



昭和59年3月26日

第2期工事 プール竣工

昭和60年2月28日

第3期工事 校舎棟増築竣工



昭和60年11月13日

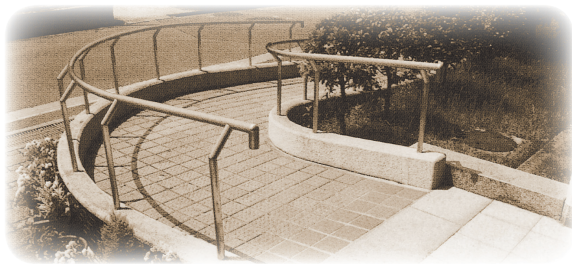
第4期工事 環境整備完了

平成元年3月30日

コンピューター教室整備

平成6年3月31日

家庭科総合実習室(B室)整備
ワークルーム整備



平成8年1月31日

エレベーター整備

平成9年10月20日

福祉整備工事完了



平成12年1月26日

L A N教室整備

平成13年8月29日

教育相談室整備



The History 沿革

平成14年11月9日

創立20周年記念式典挙行

平成14年11月29日

教育コミュニティー室整備

平成16年4月1日

府立高校一斉クーラー稼動

平成21年4月1日

泉南地域新高等学校として「りんくう翔南高等学校」が泉南高等学校の校地校舎に開校

平成23年2月26日

第26回卒業式及び閉校式挙行
閉校記念式典挙行

平成23年3月31日

閉校





↑ 1985 年 11 月（開校当時）の砂川高校

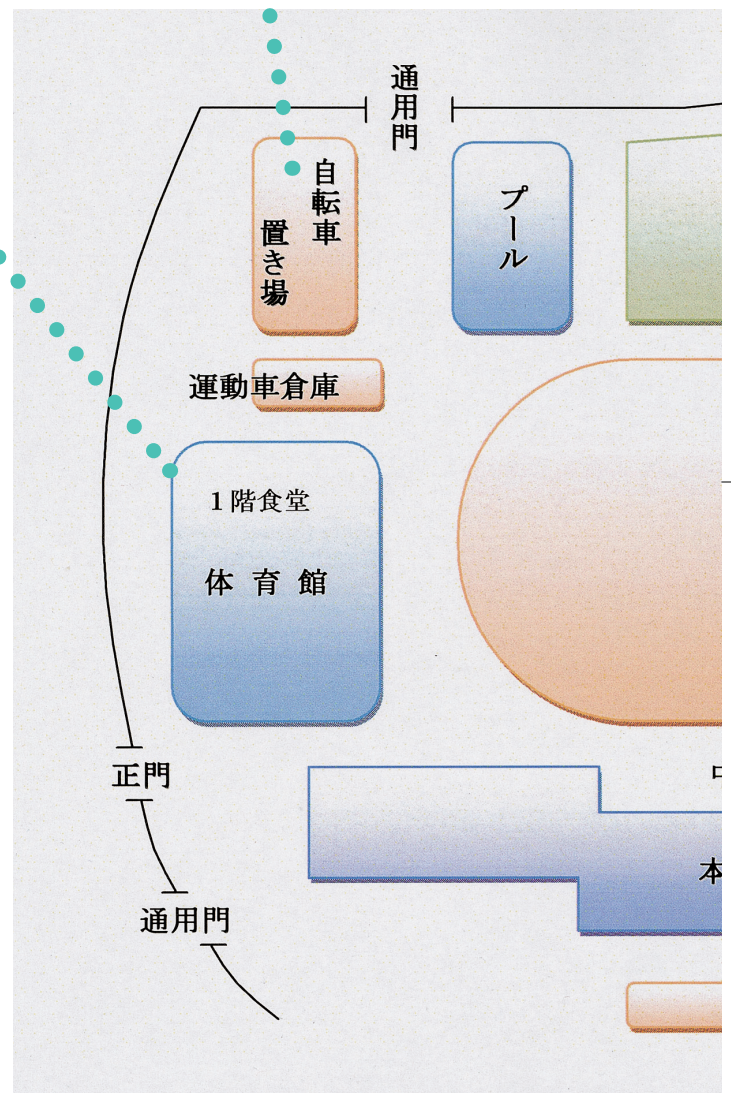


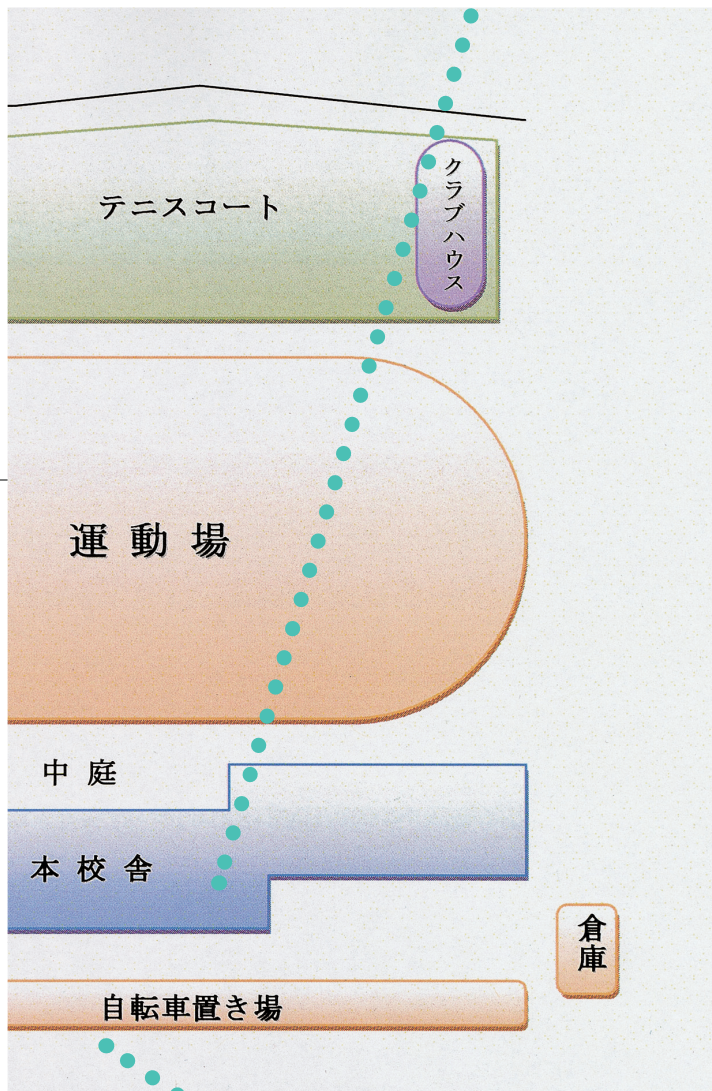
↑ 2002 年 5 月の砂川高校を空撮



↑ 2010 年 7 月（現在）の砂川高校を空撮

施設（学校外観）





施設（校舎内部）



◀▲教育コミュニティー室





周辺風景

